

／これからも地域とともに。／

2026.9.1

Vol.101



北信総合病院だより

- 特集1 「間質性肺炎対談」
(2-5 ページ)
- 特集2 「医療 DX 座談会」
(6-9 ページ)
- 特集3 祝・老人保健施設
もえぎ30周年
(10-11 ページ)
- 第63回病院祭11月14日開催!
(12 ページ)
- 外国人専用ホームページ公開
(13 ページ)
- 医療・介護・事務一働く仲間を
募集中心!・編集後記
(14-15 ページ)
- 管理栄養士・調理師・
調理補助スタッフ募集中
(16 ページ)



『北信総合病院だより』の歩みはこちらの二次元コードからご覧いただけます。



100号記念特設サイト

荒井 裕国 統括院長



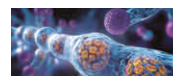
白井 剛 呼吸器内科部長

息切れを「年齢のせい」にしない 間質性肺炎を正しく知る— 早期発見から治療まで

「階段で息が切れる」「以前より農作業が辛い」。そんな変化を、年齢のせいだと思いませんか。肺の奥で炎症や線維化が起こる間質性肺炎は、早く気づき、原因や病型を丁寧に見極めることが大切です。北信総合病院の荒井 裕国統括院長が、白井 剛呼吸器内科部長に、病気の仕組みから北信地域で注意したい生活環境、検査と治療まで聞きました。



肺胞の「壁」が厚く、
硬くなる間質性肺炎



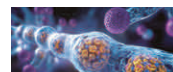
荒井 まず、「間質性肺炎」とはどのような病気なのでしょうか。一般的な肺炎との違いから教えてください。

白井 細菌やウイルスによる一般的な肺炎は、主に空気が入る肺胞の中に炎症が起こります。一方、間質性肺炎では、肺胞を取り囲む薄い壁、つまり「間質」に炎症や傷害が起こります。それが続くと壁が厚く硬くなる「線維化」が進み、肺が十分に膨らみにくくなり、血液へ酸素を取り込みにくくなります。マジックテープをゆっくり剥がすような細かな音が、聴診器で聞こえることも特徴の一つです。

荒井 間質性肺炎は、一つの病名ではないのですね。

白井 はい。さまざまな病気を含む大きなグループの名前です。膠原病、薬剤、仕事や住環境で吸い込む物質など、原因が分かるものがあります。一方、十分に調べても原因が特定できないものを「特発性間質性肺炎」と呼び、その代表的な病型が「特発性肺線維症」です。原因と病型によって治療が異なるため、まず正確に分類することが重要です。

最初のサインは、
いつもの動作で感じる息切れ



荒井 どのような症状が、受診のきっかけになりま

すか。

白井 最も多いのは、体を動かした時の息切れです。階段や坂道で休まなければならなくなった、同年代の人について歩けなくなった、半年から1年で少しずつ苦しくなった、といった変化です。痰を伴わない空せきが続くこともあります。ただ、初期にはほとんど症状がなく、健康診断の胸部X線検査や、別の目的で撮影したCTで見つかる方もいます。

荒井 北信地域では車で移動することが多く、日常生活だけでは息切れに気づきにくいかもしれません。

白井 その通りです。診察では「階段でどうですか」だけでなく、農作業、雪かき、マレットゴルフ、犬の散歩など、その方が普段している活動を具体的に伺います。「以前より疲れやすい」「最近は難儀になった」という感覚が、

早期発見の大切な手がかりになります。息切れを単に年齢のせいにはしないでほしいと思います。

生活や仕事の中に原因がある
「過敏性肺炎」



荒井 白井先生が研究されている「過敏性肺炎」について教えてください。

白井 過敏性肺炎は、カビや細菌、鳥由来の物質など、空気中の細かな抗原を繰り返し吸い込み、肺にアレルギー性の炎症が起こる病気です。鳥の飼育や羽毛製品、湿気の多い住宅、加湿器、農作業など、日常の環境に原因が隠れていることがあります。炎症が中心の「非線維性」と、長く続いて肺が硬くなった「線維性」に大きく分



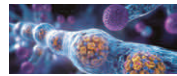


けられます。

荒井 北信地域ならではの注意点はありますか。

白井 北信地域では、積雪期に屋内で過ごす時間が長くなるため、住宅や作業場の湿気、カビ、ほこりなどに注意が必要です。また、農作業や園芸、堆肥を扱う作業などで、細かな有機物を繰り返し吸い込むことが原因になる場合もあります。症状が特定の季節や作業中に強まり、その場所を離れると軽くなるような場合は、診断の大切な手がかりになります。

診断の鍵は、画像だけでなく「暮らし」を聞くこと



荒井 間質性肺炎が疑われた時は、どのような検査を行いますか。

白井 胸部X線と高分解能CTで病変の広がりや形を確認し、呼吸機能検査では肺活量や酸素を取り込む力を調べます。血液検査では、肺胞の傷害を反映するKL-6などの値、膠原病を示す所見、原因物質に対する抗体などを確認します。ただし、一つの検査だけで決めることはできません。

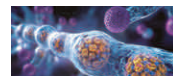
荒井 患者さんから伝えてほしいことはありますか。

白井 仕事内容、これまでの職歴、趣味、喫煙歴、住まいの状態、ペット、鳥や羽毛製品との接触、使用している薬やサプリメントまで、できるだけ具体的に教えてください。「職場では悪く、休日は楽になる」「夏だけせきが出る」といった変化も大切です。過敏性肺炎では、原因を見つけて避けること自体が治療になります。

荒井 さらに組織を調べることもあるのでしょうか。

白井 必要な場合は、気管支鏡から細い器具を入れ、肺組織を凍らせて採るクライオバイオプシーを行います。従来の外科的な肺生検より体への負担が少ない方法です。採取した組織を丁寧に処理し、呼吸器内科医、放射線診断医、病理医と一緒に検討することで、診断の精度を高めます。

目標は、炎症を抑え、線維化の進行を防ぐこと



荒井 治療はどのように選ぶのでしょうか。「線維化すると元に戻らない」と聞いて、不安になる方もいます。

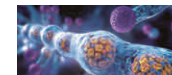
白井 まず原因が分かる場合は、その環境から離れることが最も重要です。過敏性肺炎で抗原への接触を続ければ、薬を使っても再び悪くなる可能性があります。炎症が主体ならステロイド薬など、線維化が進行する病型で

は抗線維化薬を検討します。病状に応じて酸素療法などを組み合わせることもあります。

荒井 治療によって、どこまで目指せますか。

白井 一度できた強い線維化を完全に元へ戻すのは難しい一方、原因を早く見つけ、適切な治療を始めることで、炎症を抑え、線維化の進行を遅らせる可能性があります。すべての患者さんにすぐ薬が必要なわけではなく、軽い病変なら半年から1年ごとに症状、呼吸機能、画像を確認しながら経過を見ることもあります。大切なのは、その方に合った方針を選び、変化を見逃さないことです。

聴診器でわかる、肺からの小さなサイン



荒井 セっかくですから、私の肺の音も聴いていただけますか。

白井 では、背中に聴診器を当てますので、口からゆっくり大きく息を吸って、吐いてください。間質性肺炎では、背中の下の方から特徴的な音が聞こえることがあります。

荒井 どのような音に注意しているのですか。

白井 間質性肺炎では、背中の下の方から、マジックテープをゆっくり剥がすような細かな音が聞こえることがあります。ただし、聴診だけで診断することはできま



せん。気になる音があれば、胸部X線検査やCTなどで詳しく調べます。

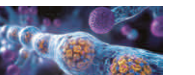
荒井 この検査は普通に行われるものですか。

白井 はい。聴診は、せきや息切れなどの症状がある方に、日常の診療で広く行われる基本的な診察です。間質性肺炎に限らず、肺炎や気管支喘息など、さまざまな呼吸器の病気を見つける手がかりになります。

荒井 白井先生のような専門医が身近にいて、必要な時に相談・受診できることは、地域の皆さんにとって大きな安心ですね。

白井 ありがとうございます。息切れや空せきなど、気になる症状があれば、年齢のせいだと決めつけず、まずはご相談ください。地域の医療機関とも連携しながら、早期発見と適切な診断・治療につなげていきたいと思っています。

急な変化は我慢せず、早めに相談を



荒井 患者さんやご家族が、特に注意したい変化はありますか。

白井 それまで安定していたのに、数日から数週間で息苦しさやせきが急に強くなる、発熱を伴う、安静にしても苦しい、といった場合は、感染症や「急性増悪」などを考える必要があります。様子を見続けず、早めに医療機関へ連絡してください。普段から禁煙と感染予防を心がけ、体調に合わせて無理のない活動も続けることも大切です。息切れがあるからと動かなくなり過ぎると体力が落ちるため、運動量や酸素の使い方は主治医やリハビリスタッフと相談しましょう。

荒井 最後に、患者さんご家族へメッセージをお願いします。

白井 「間質性肺炎」という名前を聞くと、不安になるのは当然です。しかし、原因や進み方は一人ひとり異なり、すぐに治療が必要なばかりではありません。いつもの生活の中で感じる小さな変化が、診断の入口になります。以前より歩くのが遅くなった、農作業や雪かきがつらい、空せきが続くという時は、年齢だ

だけで片づけずに相談してください。早く気づき、正しく診断し、長く付き合っていくことが何より大切です。



「間質性肺炎について」
2026年6月放送動画

※最後に

本稿は取材記録をもとに、一般の方向けに構成・整理した原稿案です。症状や治療方針は患者さんごとに異なります。気になる症状がある場合は医療機関にご相談ください。

仕事や生活環境の中に原因があることが多いですね

身近に専門医がいてくれるなんて、こんなに心強いことはありません

高田 祐樹
システム課職員

清水 浩一
システム課長代理

金井 歩美
統括看護部長

荒井 裕国
統括院長

菱沼 典正
副院長・DX推進委員長

特集2 現場座談会

「医療DX」で、 もっと身近で安心な病院へ

医療DXという言葉から、最新の機器や人工知能（AI）を思い浮かべる方も多いでしょう。しかし、北信総合病院が目指すのは、デジタル化そのものではありません。限られた人材で地域医療を守り、職員が患者さんと向き合う時間を増やすことです。看護現場で始まった変化、チャットやAIの役割、そして地域をつなぐ将来像について、荒井 裕国統括院長が菱沼 典正副院長・DX推進委員長、金井 歩美統括看護部長、清水 浩一システム課長代理、高田 祐樹システム課職員と語り合いました。

DXの出発点は「人の時間」を取り戻すこと

荒井 まず、なぜ今、北信総合病院に医療DXが必要なのでしょう。

菱沼 人口減少や高齢化が進み、医療を支える人材にも限りがあります。一方で、地域の中核病院に求められる役割は小さくなりません。今ある人材と時間を有効に使い、安全な医療を持続させるために、DXは避けて通れない取り組みです。ただ、目的は単なる効率化ではありません。職員が事務作業や情報探しに費やしていた時間を、患者さんのために使える時間へ変えることが出発点です。



金井 看護部では、時間外勤務を減らしながら看護の質を高めることが課題でした。記録のために病室とナースステーションを往復し、あとで同じ内容を入力し直す。その重なりを減らせれば、患者さんのそばにいられる時間が増えます。そこで、まず病棟のモバイル化から取り組みました。

荒井 DXは「人を減らすため」ではなく、「人にしかできない医療へ時間を戻すため」なのですね。

1人1台の端末で、 看護の動きが変わる



荒井 看護現場では、具体的に何が変わりましたか。

金井 看護師が1人1台のモバイル端末を持ち、患者さんのそばで必要な情報を確認し、その場で記録できるようにしました。血圧や体温などは機器から電子カルテへ連携し、手書きした数値をあとで転記する作業を減らしています。患者さんのリストバンドと薬剤のバーコードを照合する仕組みは、取り違えの防止にもつながります。音声入力も活用し、二重の作業や入力漏れを減らしながら、安全性を高めることを目指しています。

菱沼 導入すれば終わりではありません。負担や歩行距離、時間外勤務などを導入前後で測り、実際にどれだけ改善したかを確かめます。端末に慣れる速さは人によって違いますから、現場の声を聞き、画面や運用を直し続

けることも大切です。

金井 機器を見る時間が増えて患者さんとの会話が減っては、本末転倒です。入力はできるだけ短くし、表情や声の変化を感じ取る看護に集中できる形をつくります。

「人を探す仕事」を、 チームで共有する時間へ



荒井 院内チャットも、働き方を変える仕組みの一つですね。

菱沼 これまでは、電話をかけても相手が処置中で出られず、折り返しを待つことがありました。チャットなら、用件を残しておき、手が空いた時に確認できます。複数の職種が同じ情報を同時に共有でき、伝言の抜けも防ぎやすくなります。緊急時は従来どおり電話を使うなど、連絡手段を使い分けることが前提です。

金井 電話では相手の状況が見えず、「今かけてよいだろうか」と遠慮することもあります。チャッ



トは必要な情報を簡潔に送やすく、相談の心理的な壁を下げます。術後の痛みに対応するチームでも、多職種が患者さんの状態を共有し、早く対応できた例があります。

荒井 連絡が速くなるだけでなく、必要な人が同じ情報を持ち、チームとして動きやすくなるわけですね。

現場の工夫を、 病院全体の力に



荒井 新しい仕組みを定着させるために、どのような工夫をしていますか。

金井 毎月のDXミーティングで、各病棟の工夫や困りごとを共有しています。画面の見せ方、入力の順序、チャットの便利な使い方など、小さな発見が別の病棟でも役立ちます。上から一律に決めるだけでなく、実際に使う職員が改善に参加することが重要です。

菱沼 将来は、看護師や看護補助者、リハビリテーション職などが小さなチームとなり、患者さんの近くで動く体制も段階的に検討します。その土台になるのが、必要な情報へどこからでも安全にアクセスできる環境です。同時に、院内ネットワークや無線設備の更新、アクセス権限、操作履歴の管理など、目立たない基盤整備も欠かせません。DXを進める「攻め」と、情報を守る「守り」を一緒に進めます。

定型業務はデジタルに、
人は判断と対話に



荒井 看護以外の業務にも、DXの取り組みは広がっていくのでしょうか。

菱沼 はい。決められた手順を繰り返す事務作業には、RPAと呼ばれる自動化の仕組みを活用していきます。職員が複数のシステムへ同じ情報を入力したり、定型的な集計や確認をしたりする時間を減らし、人にしかできない判断や調整へ力を振り向けるためです。さらに、病床の利用状況などをデータで把握できれば、救急患者さんの受け入れや入院の調整を、より速く行えるようになります。

金井 効率だけを追い求めるのではなく、患者さんの安全と職員の負担を一緒に見ていくことが大切です。時間外勤務、病棟内の歩行距離、記録にかかる時間などを導入前後で確認し、現場が本当に働きやすくなったのかを数字と職員の声の両面から評価していきます。

荒井 機械に任せられる仕事を整理し、職員は患者さんを診ること、考えること、話し合うことに集中する。その役割分担が重要ですね。

AIは判断者ではなく、
下書きを助ける道具



荒井 生成AIを医療に使うことに、不安を感じる方もいます。どこまで任せられるのでしょうか。

菱沼 当院が導入を進めるAI医療文書作成支援は、電子カルテの情報から退院サマリーや診療情報提供書などの下書きを作る仕組みです。AIが診断や治療方針を決めるものではありません。作成された文章は、必ず医師や職員が内容を確認し、責任を持って確定します。

荒井 便利さと安全性を両立させることが大前提ですね。

菱沼 はい。患者情報を扱うため、通信経路や利用範囲を限定し、学習に使われない環境を選びます。AIはもっともらしい誤りを作ることもあるため、確認を省かない運用を徹底します。2026年9月頃からの本格展開を予定していますが、効果と課題を検証しながら段階的に広げます。文書作成にかかる時間が短くなれば、そ



の分、患者さんやご家族への説明、職種間の相談に時間を使えます。

医療DXを支える、
見えない基盤づくり



荒井 医療DXを進めるうえで、システム課はどのような役割を担っていますか。

清水 医療DXというと、モバイル端末やAIなど、新しい機器やサービスに注目が集まりがちです。しかし、それらを安定して動かすためには、院内ネットワークや無線設備、情報セキュリティといった基盤が欠かせません。これまで整備してきたネットワークも更新時期を迎えており、通信が途切れにくい環境づくりを進めています。

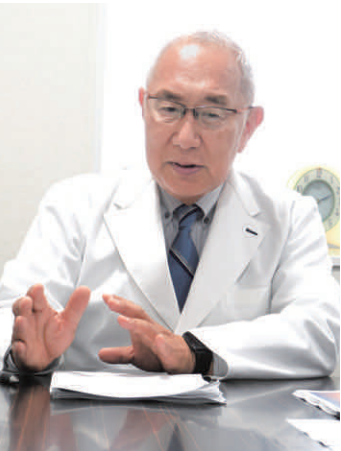
また、医療情報は患者さんの大切な個人情報です。誰が、どの情報に、いつアクセスしたのかを確認できる仕組みや、職種・業務に応じたアクセス権限の設定など、安全面を十分に考えなければなりません。新しいシステムを積極的に活用する「攻め」と、情報を確実に守る「守り」の両方を支えることが、システム課の重要な役割だと考えています。

荒井 便利さだけを求めるのではなく、病院の機能を止めないこと、患者さんの情報を守ることが大前提なのですね。

清水 はい。職員が安心してシステムを使えなければ、患者さんにも安心して医療を受けていただくことはできません。目立たない部分ではありますが、安全で安定した環境を整え、何か問題が起きた時にも速やかに対応できる体制をつくっていきます。



現場の声を聞き、
使いやすい仕組みへ



荒井 新しいシステムを実際の業務に定着させるためには、どのような支援が必要でしょうか。

高田 システムは、導入しただけでは十分な効果を発揮しません。職員によってデジタル機器への慣れや得意・不得意が異なるため、操作方法を一方的に説明するのではなく、実際の業務の中で困っていることを聞きながら支援することが大切です。

例えば、「入力する項目が見つけない」「この画面までの操作を短くできないか」「チャットの通知をどのように使い分ければよいか」といった現場の声を集め、設定や運用方法を見直していきます。ある病棟で生まれた便利な使い方を、ほかの病棟や職種へ共有することも、システム課の大切な仕事です。

荒井 システム課が、デジタル技術と医療現場をつなぐ橋渡し役になるのですね。

高田 はい。職員が操作に時間を取られてしまえば、医療DXの意味がありません。できるだけ迷わず、負担なく使える環境を整え、困った時にはすぐ相談できる存在でありたいと思います。現場の皆さんと一緒に改善を重ね、その先にある「患者さんと向き合う時間を増やすこと」につなげていきたいです。

北信総合病院の医療DX～「今できていること」と「これから進めること」

今できていること	これから進めること
看護師1人1台のモバイル端末	AIによる医療文書の作成支援
バイタルサインの自動連携とベッドサイド入力	定型事務を自動化するRPA
バーコード照合	院内ネットワークの更新
院内チャット	データを生かした病床管理や経営分析
毎月のDXミーティング	地域の医療・介護をつなぐ情報連携

院内DXから、
北信地域をつなぐDXへ



荒井 院内の改善は、将来どのように地域医療へ広がっていくのでしょうか。

菱沼 目指すのは、病院の中だけで完結するDXではありません。まず国が進める「3文書6情報」の共有を足掛かりに、診療所、薬局、訪問看護、介護施設、救急隊など、患者さんを支える人たちが必要な情報を安全に共有できる仕組みへつなげたいと考えています。通院が難しい方や豪雪時の支援、人生の最終段階における医療・ケアの希望を共有するACPにも役立つ可能性があります。将来、全国的な情報共有が進めば、災害時や旅行先で急に受診した場合にも、これまでの診療情報を確認しやすくなります。住む場所が変わっても必要な医療が途切れないことは、地域の皆さまにとって大きな安心につながります。

金井 退院後の生活を見据えると、病院と在宅の間で情報が途切れないことはとても大切です。ただし、共有する情報、見ることができる人、患者さんの同意を明確にしなければなりません。便利さだけを先行させず、安心して使える仕組みを地域の皆さまと一緒につくっていきます。

荒井 医療DXは、機械に医療を任せることではないことが今日の対談でよくわかりました。デジタルの力で職員の負担を減らし、安全性を高め、その先に患者さんとの対話を増やす取り組みなのですね。新しい仕組みを一つずつ確かめながら、「ここなら安心して受診できる」と思っていただけの病院であり続けてまいります。



特集3 祝老人保健施設もえぎ30周年



30年の感謝を胸に、おそろいTシャツで一致団結！チームワークもさらにパワーアップです



老人保健施設もえぎ創立 30周年に寄せて

老人保健施設もえぎ 施設長
下山 丈人



1996年（平成8年）8月8日に中野市吉田の地に開設された老人保健施設もえぎは今年で創立30周年を迎えました。当施設がここまで来られたのは、多くのご利用者様にご利用いただき、ご利用者様のご家族、地域、ボランティアおよび病院の職員の皆様のご支援の賜であり、当施設職員の努力の結果であると考えています。

当施設は訪問看護ステーションなかのと中野市在宅介護支援センターを併設し、病院と自宅をつなぐ『中間施設』として開設されました。2000年4月に介護保険制度がスタートすると、老人保健施設は介護保険法に基づく施設となり、中野市在宅介護支援センターに居宅介護支援事業所が開設されました。訪問看護ステーションなかのは2002年に、居宅介護支援事業所は2004年に北信総合病院に発展移転し、中野市在宅介護支援センターは制度改正に伴って2006年に閉所しましたが、その後も当施設は入所サービスと居宅サービス（短期入所および通所リハビリテーション）を中心とした介護サービスを展開し、2021年5月に訪問リハビリテーションを開設して現在に至っています。

私は2007年7月に当施設に赴任し、当施設開設30周年の内の19年間の長きに渡り、施設長を拝命させていただいていることは光栄の限りであります。着任当時、私は介護保険や老人保険施設をよく理解していませんでしたが、介護支援専門員の資格試験のための学習を通じて、介護保険や老人保健施設が何であるかを理解し、老人保健施設の主役は介護スタッフであることを徹底させ、当施設を老人保健施設の理念と役割に基づいた、

在宅復帰、在宅生活支援、リハビリテーション施設を目指す方針を打ち出し、現在、最も老人保健施設らしい超強化型施設として運営しています。医療面では、当施設で行う医療に一定の基準を定め、その基準内は、極力、当施設で加療していく方向としました。更に、要望の増加から、当施設での看取りを2009年9月から開始し、2026年7月末までに84名のご利用者様を看取っています。また、介護面では人間工学を活用した北欧式の利用者、介護者双方にやさしい介護並びに介護技術を導入し、リハビリテーション面ではスタッフを多数配置していただき、さまざまなニーズに対応したきめ細やかなリハビリテーションを行っており、更に、認知症に対するリハビリテーションも実施しています。

2020年からのコロナ禍によって、当施設も面会制限や外出制限、もえぎ祭り等のイベントの中止など負の時代が続いていましたが、面会制限を緩和したり、一部のイベントの再開など、徐々に平常に戻りつつあります。そして、本年は10月17日（土）にもえぎ祭りをを行い、特に同日午後1時から地域やご家族の皆様への感謝の気持ちを込めて、もえぎ開設30周年記念感謝祭を開催します。催し物や軽食の提供もありますので、多くのご参加を心からお待ちしております。

今後も多くの皆様にご利用していただけるような身近で利用しやすい施設となり、更に、創立40周年、50周年を迎えることができるように、職員一丸となって変化し、向上していく所存でありますので、今後とも老人保健施設もえぎをどうかよろしくお願いいたします。



第63回病院祭

11月14日

は北信総合病院へ!



病院祭実行委員会事務局
健康管理課 課長
外谷 真之

今年も、地域と病院が笑顔でつながる病院祭の季節がやってきます。餅つきやヒーローショー、専門医による公開講座など、楽しみながら健康と医療を学べる催しが盛りだくさん。ご家族やご友人と、ぜひお越しください。

第63回 北信総合病院 病院祭

2026 11/14 土 9:00~15:00

休診となります

楽しいイベント 盛りだくさん

北信総合病院は「中野えびす講」を応援しています

JA長野厚生連 北信総合病院
〒383-0021 長野県中野市西1丁目5-63
☎0269-22-4838

昨年の第62回病院祭は、病院創立80周年という大きな節目の年に、多くの地域の皆さまにご来場いただき、盛況のうちに開催することができました。

公開講座「普段聞けない病気のあれこれ専門医に聞いてみよう!」や、佐久総合病院劇団部による寸劇、新たな企画として実施した「安心見守り隊・倍増戦士ロゼ」によるヒーローショーは、多くの皆さまにご好評をいただき、会場は笑顔と活気に包まれました。

今年の第63回病院祭は、2026年11月14日(土)午前9時から午後3時まで開催する予定です。今年も恒例の餅つきをはじめ、「安心見守り隊・倍増戦士ロゼ」によるヒーローショー、専門医による公開講座など、子どもから大人まで楽しみながら学べる催しを企画しています。地域の皆さまに病院をより身近に感じていただき、ご自身やご家族の健康について考えるきっかけとなる1日になれば幸いです。

これからも当院は、医療を提供する場としてだけでなく、地域の皆さまとの交流を大切に、安心して暮らせる地域づくりに貢献してまいります。ぜひ、ご家族やご友人とお誘い合わせのうえ、ご来場ください。職員一同、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。



Language

Notice

Information for Patients

About Us

Translate this Website

English

한국어

簡體中文

繁體中文

外国人専用ホームページのご案内

<https://www.hokushin-hosp.jp/language/>

広報課長
内田 守道



外国人の患者さんにも安心してご来院いただけるよう、専用Webページを公開しました。

対応言語：英語・中国語・韓国語(2026年9月現在)

掲載内容：診療時間、受診案内、アクセスなど

観光で訪れる方も、地域でお住まいの方も、安心して受診していただける体制づくりに引き続き努めてまいります。



こちらからご覧いただけます

English

中文(简体)

외국인 환자

New Website for International Patients Now Available

To help international patients feel at ease when visiting our hospital, we have launched a dedicated webpage. Languages available: English, Chinese, and Korean (as of September 2026). Information provided: Consultation hours, what to bring for your visit, directions to the hospital, and more. Whether you are visiting the area as a tourist or living locally, we will continue working to provide an environment where you can receive medical care with confidence. The webpage is easily accessible from your smartphone. Please feel free to use it.

外籍患者専用网页上线通知

为了让外籍患者也能安心来院就诊，我们开设了专用网页。支持语言：英语、中文、韩语(截至2026年9月)网页内容：门诊时间、就诊时所需物品、交通指南等。无论您是来本地区旅游，还是在本地居住，我们都将努力完善医疗服务体系，让您能够安心就诊。使用智能手机即可轻松访问。欢迎使用。

외국인 환자 전용 웹페이지 개설 안내

외국인 환자분들도 안심하고 내원하실 수 있도록 전용 웹페이지를 개설했습니다. 지원 언어: 영어·중국어·한국어(2026년 9월 현재) 안내 내용: 진료 시간, 진료 시 필요한 준비물, 오시는 길 등. 관광으로 방문하신 분은 물론, 지역에 거주하시는 분도 안심하고 진료받으실 수 있도록 앞으로 의료 서비스 환경을 지속적으로 개선해 나가겠습니다. 스마트폰으로 간편하게 접속할 수 있습니다. 많은 이용 바랍니다.

ACCESS GUIDE TO HOKUSHIN GENERAL HOSPITAL / 北信総合病院 交通案内

BY HIGHWAY 高速道路

Shinshu-Nakano IC → Via Pref. Rt. 29 (approx. 10 min) → Hokushin General Hospital

Suzuka-Nagano-Higashi IC → Via Nat. Rt. 403 (approx. 35 min) → Hokushin General Hospital

FROM NAGANO CITY CENTER 長野市街地から 45 min to Hokushin General Hospital

Nat. Rt. 18 → Turn Right (East) at Asano Signal → Nat. Rt. 117 → Turn Right (Towards Nakano City) at signal 1.4km ahead → Pref. Rt. 29 → Approx. 6km Straight (NE) → Hokushin General Hospital

BY TRAIN 電車

Nagano Dentetsu (Limited Express): Approx. 33 min → Shinshu-Nakano Sta. → Walk: Approx. 5 min → Hokushin General Hospital

BY BUS バス

Board buses towards "Shinshu-Nakano Sta." from Kijima, Iiyama, Toyoda area, Kita-Shiga, Yudanaka area, and Nakano city center. Get off at "Hokushin Byoin-mae" bus stop. It's a 1-minute walk.



北信で働く。仲間と育つ。自分らしいキャリアをつくる。

あなたの「働きたい」が、地域の「安心」になる。

医療・介護・事務—
北信総合病院で、
ともに働く仲間を募集しています。

人事課長
山田 善康



引っかけに、私たちは向き合いたいのです。

北信総合病院は、地域医療の要としてこの北信医療圏を支えています。都会にはない「顔の見える温かいチーム医療」があり、80年で築き上げた思いやりの文化が根付いています。ここは、あなたの経験や技術が最も必要とされ、そしてあなた自身も大切にされる場所です。

無理な負担を強いるのではなく、ライフステージに合わせて長く働き続けられる環境づくりを、私たちは今まさに進めています。

「地元・北信の未来のために、自分の力を活かしたい」「もう一度、自分らしく働きたい」。そんなあなたの想いを、当院でカタチにしませんか？

『80年の歴史が証明する、ここにしかない「働きやすさ」』



80年もの間、北信総合病院が地域医療の要であり続けられた理由。それは、医療技術だけでなく、「働く人を大切にする文化」を守り、進化させてきたからです。

歴史があるからこそ、私たちは人手不足という時代課題に対しても、「無理をさせない、助け合う」という現場の底力を知っています。温かな人間関係は、一朝一夕には作れません。これこそが、長い年月をかけて私たちが積み上げてきた、何よりの自慢です。

「歴史が長い＝堅苦しい」ではありません。「歴史がある＝人を大切にするノウハウが成熟している」ということです。

安定した環境で、かつ新しい働き方に挑戦したいあなたへ。80年の誇りと共に、私たちとこれからの北信の医療を創りませんか？最新の募集状況と、職場のリアルな顔ぶれは、採用ページで公開中です。



職員採用ページはこちら



地域の患者さんに寄り添いながら、自分らしいキャリアを育てていく。北信総合病院では、看護師をはじめとする医療スタッフや事務職など、さまざまな職種で新しい仲間を募集しています。人事課長の山田 善康が、当院で働く魅力と、未来の仲間へのメッセージをお届けします。

地域と共に成長する、あなたらしいキャリアを



「地域の健康を守りたい」。その想いを、住み慣れた北信の地でカタチにしませんか？

北信総合病院では、看護師をはじめとした医療スタッフや事務職など、多様な職種で仲間を募集しています。当院の強みは、職種の垣根を越えた風通しの良いチームワークと、スタッフ一人ひとりが安心して長く働き続けられるサポート体制です。

地元で経験を活かしてキャリアアップを目指す方も、新しい環境で一步を踏み出したい方も大歓迎です。あなたの情熱とスキルは、地域の患者さんの笑顔や、私たちの病院の未来を切り拓く大きな力になります。

現在募集中の職種や福利厚生、働く仲間のリアルな声は、当院の採用ページにて詳しく掲載しています。ぜひ一度ご覧いただき、私たちと一緒に「地域に寄り添う医療」を創っていきましょう！

その我慢や不安、北信総合病院なら変えられるかもしれない



「人手不足だから仕方ない」と、自分の理想を諦めていませんか？どこも同じような悩みを抱える現場ですが、「このままでいいのかな」というその小さな



編集後記

夏の暑い日差しが和らいで少し過ごしやすくなりましたが、まだまだ暑い日は続きそうです。

秋といえば、食欲の秋・スポーツの秋・読書の秋・芸術の秋などありますが、皆さんはどれでしょうか。私は食欲の秋です。シャインマスカット・梨などの果物や新米があります。おいしい物をたくさん食べて気分をリフレッシュしたいです。ただ、食べ過ぎには注意したいです。

また、最近個人的にバイクに興味があります。バイクの免許を取り、おいしい物を食べたり、紅葉を見にツーリングに行きたいです。

寒暖差のある季節となりますので、体調には十分に気を付けてお過ごしください。

山田 茜（診療放射線科、診療放射線技師）

募集中

「食」でいのちを支える——医療の最前線へ 管理栄養士・調理師・調理補助

北信総合病院では、管理栄養士・調理師・調理補助のメディカルスタッフを募集しています。食を通して医療を支え、患者さんの回復と健康に寄り添う仕事に、あなたの力を活かしてみませんか。見学も可能です。詳細はこちらをご覧ください。



管理栄養士

応募資格は管理栄養士免許取得者または取得見込みの方。正職員または臨時職員。

調理師

応募資格は調理師免許取得者または取得見込みの方。正職員または臨時職員。

調理師補助（パート職員）

勤務は16:30～18:45の勤務で、未経験の方も応募可能です。

休日

休日は4週8休に加え、年末年始や有給休暇、育児・介護休暇なども充実しています。



自動音声案内サービス「ナビダイヤル」

2026年4月1日より、患者さんやご家族からの問い合わせ専用の自動音声案内サービス「ナビダイヤル」を運用開始しました。「ナビダイヤル」は、お電話をスムーズにお取り次ぎするためのサービスです。自動音声ガイダンスにて、ご用件ごとに関連部署がお伺いいたします。



周知カード

☎ 0570-06-2151

使い方

ガイダンスに従い、番号を選択してください。
番号はガイダンスの途中でも選択できます。

北信クリニックの最新情報は
こちらからご覧いただけます。



<https://www.hokushin-hosp.jp/about/facility/hokushin-clinic/>



創立80周年
特設サイト

私たちは地域住民のみなさんとともに信頼され満足できる保健・医療・福祉の実現に努めます。



外来担当医表こちらです！

病院ホームページ、
外来担当医表をご確認下さい。



Instagramこちらです！

病院公式Instagramを
ぜひフォローして下さい。

